

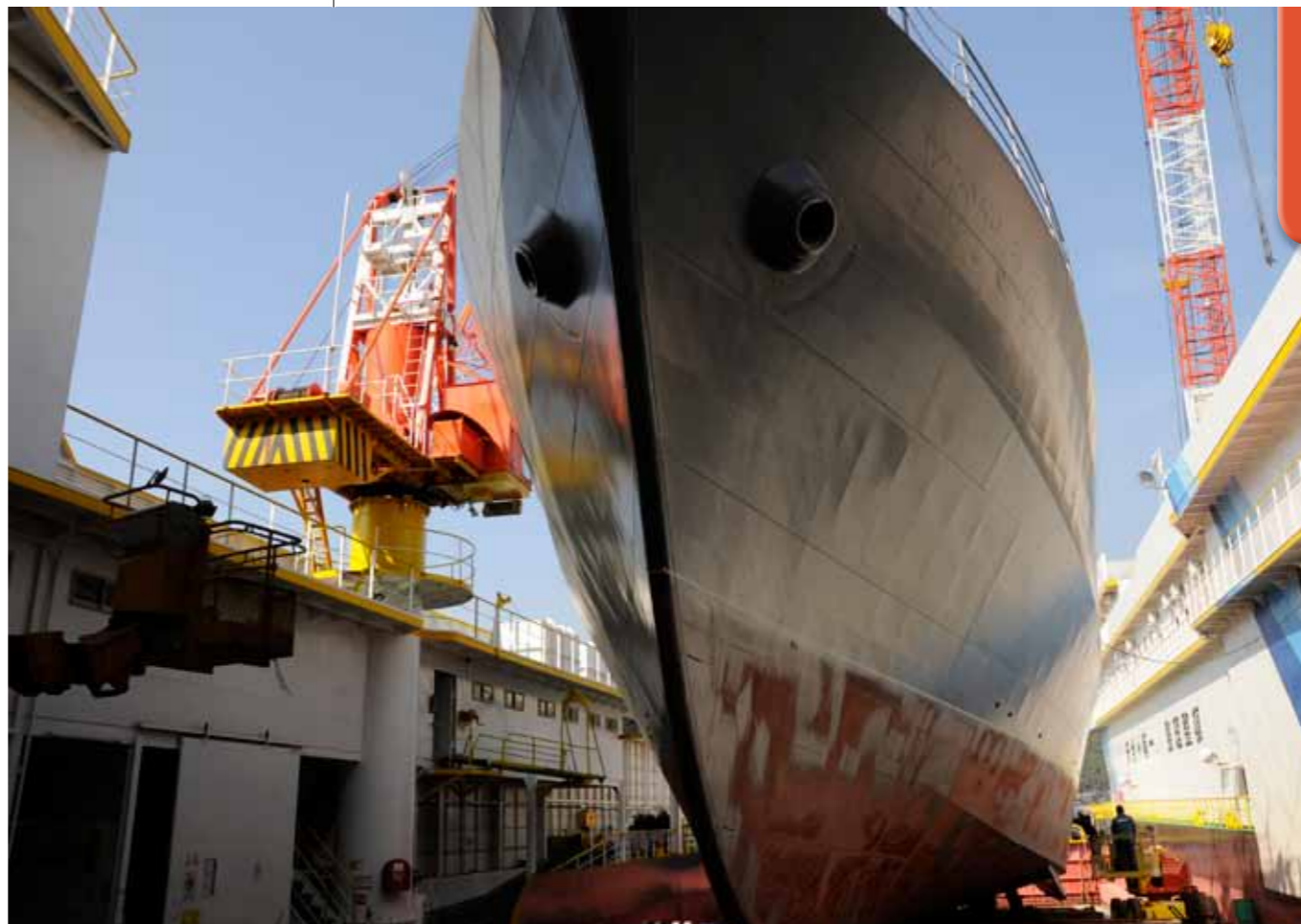
石田造船

巨大な船の安全航海を担うのは 熟練修理工のワザと熱意だっつのは

見学コース

自由見学

作業場の従業員の邪魔をしない



↑●番船台に入船している中型船。大型船に比べれば小さいが、間近で見るとその迫力に驚かされる！



工場施設

20トンクレーン

アルミ船建造工場

30トンクレーン

1号船台

改修船台
(屋根付き全天候型)
長さ55m×幅12m

10トンクレーン

2号船台

改修船台
長さ55m×幅9m

3号船台

改修船台
長さ55m×幅9m

防波堤

No.1棧橋

No.2棧橋

No.3棧橋

水深4.5m

灯台

船の大きさによって使用する船台が変わる。まさに海上の修理工場だ

アンカー取り外し

長さ150メートル、重さ300トンもあるアンカーは降ろすだけでもひと苦労。6人がかりの作業だ。錨を降ろしたときに、その重さで船を停泊させている



アンカーのサビ取り

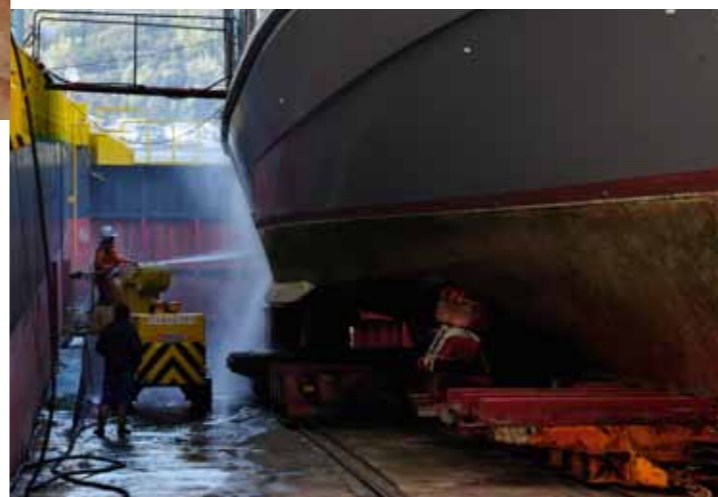
アンカーがサビ付いてしまっている部分は、先が高速で振動するサビ取り器具で丁寧に磨きとる。それでも頑固なサビはおとすのに時間がかかる



↓因島の三庄湾に工場を構える石田造船建設は今年で88周年を迎えた



↑NHKの朝ドラ「てっぺん」のロケ地に使用。本編では「篠宮造船」として登場する



洗浄

長い航海を続けているうちに船底には藻などがビッチリ！ そうした汚れを高圧洗浄機で洗い流すのは、塗装作業を行う前の大切な作業だ

この工場は、NHKの連続テレビ小説「てっぺん」のロケ地として利用されている。篠宮久太（柳沢慎吾）が経営する「篠宮造船」の工場……といえは、ピンと来る方も多いのでは？

1923年、船大工だった創業者・石田五左衛門が、広島県因島で「石田造船」の看板を掲げたのが会社のルーツ。

創業当時から一貫して守ってきたのは「お客様本位の船造り」だ。造り手側が造りやすい船ではなく、顧客の利にそった船を常に探求してきた。これは、どんなに時代が変わっても、経済状況が変動しようとも、ブレないポリシーなのだとか。

数々の特許、実用新案を取得するなど、その開発力、技術力は船舶業界でも定評がある。また、本来の造船業に加え、現在は棧橋、建設、土木など、事業展開は多岐に渡っている。

創業の地、因島にあるこの工場フェリーを中心に中型船の製造を得意としている。また、「モーターヨット型旅客船」「200トン吊りクレーン船」など、特殊船開発にも大いに力を注いでいる。

造船以外でメインとなる業務は、船舶の点検・補修・修理など。これも、船舶のためには極めて重要な役割である。修理のために、作業



↑船上には造船所の作業員とこの艦の自衛隊員が乗り込みドック入りを注意深く見守っている



↑海中に敷かれている船台の上をしっかり載っているか確認しながら慎重に進む。右端の潜水夫がその役割である



↑午前10時、前日に入港していた船はいったん沖合で向きを変えて曳航されながらドックに入ってくる



↑潮の干潮を待ってドックと海とを仕切るゲートを大型クレーンで取り付けるのだが、この日の干潮時間は午前6時。前日は午前5時がその時間



↑ドック入りが終わり、船が船台とももしっかり固定されると船とドックとの間にタラップを付ける。ここから作業員達は乗船する



↑船を載せている船台の引き揚げ用ワイヤーを付け加え、補強しながら巻き上げる300トンの船だが作業は慎重

船台への入船作業

今回の作業は300トンの海上自衛隊の船であったが、このクラスのものでも陸上に引き上げるだけでも2~3時間もかけて慎重に作業がおこな

れる。クルマでいう車検にあたる年1回の定期修理。2週間ほどで終わるが船によっては1カ月もかかる場合もある。

見学 i n f o

問合せ・申込み

石田造船建設 総務課

☎ 0845-22-0482

HP <http://www.ishida-zosen.co.jp/>

住 広島県尾道市因島三庄町
宇宝崎2931番地の4

- 受付 / 9時~17時 (土・日・祝日、年末年始を除く)
- 申込み方法 / 電話
- 予約受付 / 事前連絡のうえ日程を調整
- 受付人数 / 1人から

- 見学実施日 / 月~金曜日 (祝日、年末年始を除く)
- 見学開始時間 / 9時~17時
- アクセス / JR山陽本線尾道駅より車で40分



クレーン作業

海面のゴミをすくい取るカゴが到着。この後、油回収船兼清掃船にとりつける



塗装

油回収船兼清掃船の塗装作業がおこなわれていた。数日後にはピカピカに!

船体のサビ取り

船底に付着した牡蠣殻などを除去することで船本来の性能を発揮することができるのだ



特に見学コースの類いは設けられていないが、工場内の自由な見学が可能。そこでは、造船事業のスケールの大きさと、船にかける従業員たちの誠実な仕事ぶりを見て感じる事ができる。ただし真剣に作業をしている従業員の邪魔をすることは控えたい!

をを行う船台に大きな船が上がるまでの過程や、陸に上がったからの作業風景はとても興味深い。

工場の敷地面積は3500平方メートルと大規模ながら、従業員の数は約30名。その規模を思うと少ない印象だ。つまりここは少数精鋭主義。凄腕の職人的なスタッフが目撃、理想の船作り、船のメンテナンスに取り組んでいるというわけだ。高い技術力を誇る下町の町工場が、そのまま巨大工場化した……そんなイメージすらある。

MEMO 新造船が完成したときは盛大な進水式を行う。見学は自由なので、ホームページでの告知をチェックしたい!